

2011年9月10日 廃棄物計画部会 第3回研究会・幹事会 ■話題提供

(日本計画行政学会 基調講演 中央大学後樂園キャンパス)

『東日本大震災とソーシャルイノベーション』

鈴木 寛 前文部科学副大臣・参議院議員

講演要点

- このたびの東日本大震災は、阪神・淡路大震災と全く異なる様相を示している。
 - ・地震の大きさ：阪神・淡路 M6.9 東日本 M9
 - ・被災範囲と状況：700 kmにわたる津波浸水 6県62市町村（青森から千葉）
 - ・原子力発電所問題及び放射性物質による汚染
- 東日本大震災からの復興を、日本のソーシャルイノベーションにつなげ、世界に発信
 - ・強い決意をもった‘市民’から始めよう
 - ・そのための人づくり、地域づくり、学びのイノベーションが必要

- 3. 11以後感じることは、大企業、政府、報道、医療等のマスシステムの終焉である。
- 震災以前からの課題
 - ・統治への不信 ・人口減少 ・課題の先送り
- 震災によって顕在化した課題
 - ・トレードオフ問題に耐えられない社会 ・蔓延する上意下達体質 ・形式的平等主義
 - ・社会問題解決や社会との対話に熟練していないアカデミア
 - ・大量生産、大量消費、大量廃棄物質文明の破たん
- 震災によって加速した課題
 - ・復興財源の確保 ・リスク負担をめくり進まない合意形成 ・東北地方からの人口流出
- 問題の背景
 - ・日本国民は、政治家の選出に明らかに失敗 ・政府への過剰期待と失望
 - ・オルテガ『大衆の反逆』で代議制民主主義の限界が指摘されている
→他に代表されることはない→補完システム必要

- スクールコミュニティの可能性—熟議ができる
 - ・小学校区で熟議し、物事を進める
 - ・コミュニティスポーツ、コミュニティヘルスケア、コミュニティスクール等
 - ・それらを発信するためにコミュニティメディアを創設する
 - ・外から幸せをもってくるのではなく、内から幸せを生み出す (中村作成)

鈴木寛氏プロフィール:1964年生まれ 東京大学法学部卒 通産省入省 2001年参議院議員初当選 参議院「政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会」委員長 2009年9月～文部科学副大臣 『熟議で日本の教育を変える』『コミュニティ・スクール構想』等